様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2015
課題番号：２５８７０１４３

研究課題名（和文）社会関係の発展が精神疾患の予防につながることを検討する縦断研究

研究課題名（英文）A longitudinal research for exploring whether the expansion of social relationship could prevent mental health problems

研究代表者
小池　進介（KOIKE, Shinsuke）

東京大学・学生相談ネットワーク本部・講師

研究者番号：１０６３３１６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、レジリエンスやソーシャルキャピタルの重要性を定量的に証明するため、(1)大学生における社会関係の発展と精神疾患の予防・軽症化・早期回復との関係を明らかにし、(2)レジリエンスやソーシャルキャピタルの要素となる、大学生がもつ精神疾患へのスティグマの現状とその要因について検討した。本研究は、査読付き英文誌7誌をはじめとした成果を上げた。本研究の研究成果は、下記小冊子に詳細にまとめ、被験者、関係者に配布し、研究成果の普及に努めた。この報告冊子は、研究代表者に請求するか、ホームページ上で手に入れることができる。

研究成果の概要（英文）：This study explored the importance of resilience and social capital. We used quantitative approaches to examine (1) the relationship between expansion of social relationship and prevention of mental illness, and (2) mental health-related stigma, which is a factor of resilience and social capital, in Japanese university students. The detailed results of this study was summarized a leaflet and we can provide if needed via internet site.

研究分野：精神医学

キーワード：思春期　抑うつ症状　縦断研究　社会関係　スティグマ

１．研究開始当初の背景

思春期後期は、社会関係を発展させる一方、精神疾患の有病率も急激に増加する時期で、大学生までに 8 人に 1 人が精神疾患を患うか、罹患した経験を持つ。大学生活は、新たに構築する社会関係を利用してライフイベントに対応し、本人の自尊心を高め、自我を確立させる過程として重要な場である。本研究では、大学というコミュニティにおいて社会関係の発展が、精神疾患の予防・軽症化・早期回復につながることを定量的に証明し、社会関係構築の正の側面を見出すことが目的である。本研究によって、レジリエンスやソーシャルキャピタルの重要性を定量的に証明し、大学精神保健・支援機関のモデルケースとなることを目的とする。

２．研究の目的

(1)　社会関係の発展と精神疾患の予防・軽症化・早期回復との関係を明らかにする。

(2)　レジリエンスやソーシャルキャピタルの要素となる要素として、大学生がもつ精神疾患へのスティグマの現状とその要因について検討する。

３．研究の方法

(1)　インターネットアルバイト募集サイトより、本研究の目的を伝えずに被験者をリクルートし、都内 20 の大学より 259 名を登録した。ウェルビーイング WHO-5、抑うつ症状 GHQ-12、ソーシャルサポート SSQ-6、及び各種社会経済的背景等を質問紙から得る調査を、初回、1 年後と実施した。1 年後は、218 名（84.2%）から回答を得た。

ソーシャルサポートが精神的健康に及ぼす影響について、SSQ-6 と WHO-5 を用いて重回帰分析を用いて検討した。

(2)　上記調査に、スティグマ指標も聴取し、大学生のもつ精神疾患へのスティグマの現状を検討し、スティグマを持つ要因として、メディアとの関係、統合失調症病名変更の認知度に着目して検討を行った。

４．研究成果

(1)　初回時のソーシャルサポートと 1 年後の精神的健康との関連において、初回時の SSQ-6 人数の多さや満足度の高さは、1 年後の WHO-5 得点の高さと有意な関係があった。交絡因子（年齢、性別、初回時 WHO-5 得点）調整後、初回時の SSQ 満足度（SSQ-B）が 1 年後の WHO-5 上昇を予測した（表 1-1）。

初回時の精神的健康と 1 年後のソーシャルサポートとの関連においては、初回時の WHO-5 得点の高さは、1 年後の SSQ 人数の多さや満足度の高さと有意な関係があった。交絡因子調整後、初回時の WHO-5 得点の高さは 1 年後の SSQ 人数の増加を予測する傾向のみであった（表 1-2）。

(2)　「統合失調症」ペアの正解率が 41%、「認知症」ペアが 87%であった。「統合失調症」ペアを正解した人は、不正解の人よりも、メディアからメンタルヘルスに関する情報を得ている割合が高かった（図 1）。

スティグマは、旧病名、「統合失調症」、「うつ病」、「糖尿病」の順に低くなっていた（すべて $p < 0.001$，図 2）。クイズの正解別でみると、「統合失調症」ペアを正解した人は、不正解の人よりも、旧病名と「統合失調症」のスティグマ差が小さくなっていた（図 3）。

なお、本研究の研究成果は、下記小冊子（図 4）に詳細にまとめ、被験者、関係者に配布し、研究成果の普及に努めた。この報告冊子は、研究代表者に請求するか、ホームページ上で手に入れることができる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

1. Koike S, Yamaguchi S, Ojio Y, Ohta K, Ando S: Effect of name change of schizophrenia on mass media between 1985 and 2013 in Japan: a text data mining analysis. Schizophr Bull 2016 in press.
2. Iwashiro N, Koike S, Satomura Y, Suga M, Nagai T, Natsubori T, Tada M, Gonoi W, Takizawa R, Kunimatsu A, Yamasue H, Kasai K: Association between impaired brain activity and volume at the sub-region of Broca's area in ultra-high risk and first-episode schizophrenia: a multi-modal neuroimaging study. Schizophr Res 2016;172(1-3):9-15.
3. Koike S, Satomura Y, Kawasaki S, Nishimura Y, Takano Y, Iwashiro N, Kinoshita A, Nagai T, Natsubori T, Tada M, Ichikawa E, Takizawa R, Kasai K: Association between rostral prefrontal cortical activity and functional outcome in first-episode psychosis: a longitudinal functional near-infrared spectroscopy study. Schizophr Res 2016;170(2-3):304-10.
4. Koike S, Hardy R, Richards M: Adolescent self control behavior predict body weight through the life course: prospective birth cohort study. Int J Obesity 2016;40(1):71-6.
5. Koike S, Yamaguchi S, Ojio Y, Shimada T, Watanabe K, Ando S: Long-term effect of a name change for schizophrenia on reducing stigma. Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol 2015;50(10):1519-26.

6. Yamaguchi S, Koike S, Watanabe K, Ando S: Development of a Japanese version of the reported and intended behaviour scale (RIBS-J): reliability and validity. Psychiatry Clin Neurosci 2014;68(6):448-55.
7. Koike S, Nishimura Y, Takizawa R, Yahata N, Kasai K: Near-infrared spectroscopy in schizophrenia: A possible biomarker for predicting clinical outcome and treatment response. Front Psychiatry 2013;14(4):145.
8. 小池進介, Noriko Cable, Marcus Richards: 英国出生コホート研究の歴史と現状、日本での実施可能性. 精神神経学雑誌 2016;118(4):185-98.

〔学会発表〕(計14件)

1. 小池進介, 山口創生, 小塩靖崇, 島田隆史, 渡邉慶一郎, 安藤俊太郎: 統合失調症の名称変更効果:12年経過時における大学生の認知度とスティグマ ポスター at 第11回日本統合失調症学会学術総会. 2016年3月26日, 高崎.
2. 太田和佐, 小池進介, 安藤俊太郎, 渡邉慶一郎:一般大学生におけるソーシャルサポートと12ヵ月後の精神的健康との関連 ポスター at 第11回日本統合失調症学会総会. 2016年3月26日, 高崎.
3. 小池進介: 初回エピソード統合失調症の心理社会的予後因子の検討 多施設共同研究に向けて シンポジウム at 第19回日本精神保健予防学会学術総会. 2015年12月13日, 仙台.
4. Shinsuke Koike: Applicability of functional near-infrared spectroscopy for first-episode psychosis. Invited symposium at The World Psychiatric Association International Congress 2015. 2015年11月20日, Taipei, Taiwan.
5. Shinsuke Koike: Present and future neuroimaging studies for psychosis spectrum in Japan. Symposium at WPA Regional Congress OSAKA Japan 2015. 2015年6月4日, Osaka, Japan.
6. Koike S, Hardy R, Kuh D, Richards M.: Adolescent Self Control Behavior Predict Body Weight through the Life Course: 1946 birth cohort study. Poster at CLS Conference 2015. 2015年3月16日, London, UK.
7. Yamaguchi S, Koike S, Ojio Y, Shimada T, Watanabe K, Ando S.: Filmed social contact v. internet self-learning to reduce mental health-related stigma among university students in Japan: a randomized controlled trial Oral at IEPA Conference 2014. 2014年11月18日, Tokyo, Japan.
8. Koike S, Yamaguchi S, Ojio Y, Shimada T, Watanabe K, Ando S.: Name change of schizophrenia reduces stigma in general adolescents: 12 years from "MIND-SPLIT-DISEASE" to "INTEGRATION DISORDER" in Japan Oral at IEPA Conference 2014. 2014年11月18日, Tokyo, Japan.
9. Koike S, Satomura Y, Nishimura Y, Takizawa R, Kasai K.: Reduced rostral prefrontal cortex activity is associated with poor functional outcome in ultra-high risk and first-episode psychosis Symposium at IEPA Conference 2014. 2014年11月17日, Tokyo, Japan.
10. Koike S, Yamaguchi S, Ojio Y, Shimada T, Watanabe K, Ando S.: The effect of nominal change on stigma toward schizophrenia: 12 years from "mind-split-disease" to "Integration disorder" in Japan. Poster at The XVI World Congress of the World Psychiatry Association. 2014年9月15日, Madrid, Spain.
11. Koike S, Yamaguchi S, Ojio Y, Shimada T, Watanabe K, Ando S.: The effect of name change for schizophrenia from "mind-split-disease" to "Integration disorder" in Japan: A preliminary survey in university students. Poster at The Refocus on Recovery 2014 international conference. 2014年6月2日, London, UK.
12. 小池進介: 近赤外線スペクトロスコピィによる臨床応用はどこまで一般化可能か シンポジウム at 第10回日本統合失調症学会学術総会. 2014年3月27日, 東京.
13. 小池進介, 笠井清登: 「こころのリスク外来」の活動概要:統合失調症の病態解明と臨床応用に向けて Symposium at 第12回日本予防医学リスクマネージメント学会学術総会. 2014年3月8日, 東京.
14. 小池進介: 学校というコミュニティに必要な精神保健リテラシーと支援 シンポジウム at 第17回日本精神保健・予防学会学術集会. 2013年11月24日, 東京.

〔図書〕(計8件)

1. 小池進介, 西村幸香: 医学論文の読み方・書き方 in 精神科研修ノート 改訂第2版. 永井良三監修 笠井清登, 三村將, 村井俊哉, 岡本泰昌, 近藤伸介, 大島紀人編 診断と治療社. 2015:in press.

2. 川上慎太郎，小池進介：教科書、参考書の選び方 in 精神科研修ノート　改訂第２版．永井良三監修　笠井清登，三村將，村井俊哉，岡本泰昌，近藤伸介，大島紀人編 診断と治療社．2015:in press.
3. 小池進介：脳の思春期発達 in 思春期学．長谷川寿一監修　笠井清登，藤井直敬，福田正人，長谷川眞理子編 東京大学出版会．2015:131-44.
4. 小池進介：第５章　脳機能画像（NIRS）3）精神疾患で認められる所見 in 精神疾患の脳画像ケースカンファレンス診断と治療へのアプローチ．福田正人監修　笠井清登，鈴木道雄，三村將，村井俊哉編 中山書店．2014:90-5.
5. 小池進介：統合失調症　症例３）in 精神疾患の脳画像ケースカンファレンス診断と治療へのアプローチ．福田正人監修　笠井清登，鈴木道雄，三村將，村井俊哉編 中山書店．2014:216-7.
6. 小池進介：統合失調症圏障害 in 今日の治療指針　2013 年版．山口徹，北原光夫，福井次夫編　医学書院．2013:876-7.
7. 小池進介，笠井清登：第 29 章　早期精神病の研究　第２部　統合失調症の基礎と研究 in 統合失調症．日本統合失調症学会監修　福田正人，糸川昌成，村井俊哉，笠井清登編　医学書院．2013:322-9.
8. 小池進介，市川絵梨子：【社会の中の統合失調症】 学校教育(高校・大学におけるメンタルヘルス教育) in 統合失調症第５巻．石御岡純，後藤雅博,水野雅文，福田正人編　医薬ジャーナル社．2013:53-60.

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
○取得状況（計０件）

〔その他〕
ホームページ等
http://plaza.umin.ac.jp/~UTIDAHM/

６．研究組織
(1)研究代表者
　小池　進介（KOIKE, Shinsuke）
東京大学・学生相談ネットワーク本部・講師
研究者番号：10633167

(2)研究分担者
　なし

(3)連携研究者
　なし

SSQA		SSQB	
Unadjusted	Adjusted1	Unadjusted	Adjusted1
B	B	B	B
[95%CI]	[95%CI]	[95%CI]	[95%CI]
pvalue	pvalue	pvalue	pvalue
0.72	0.15	**1.33**	**0.15**
[0.34,1.09]	[-0.19,0.49]	**[0.71,1.94]**	**[0.02,1.12]**
.001**	0.39	**.001****	**.04***

表 1-1. 初回時のソーシャルサポートが１年後の精神的健康（WHO-5）に与える影響

	WHO-5	
	Unadjusted	Adjusted1
	B	B
	[95%CI]	[95%CI]
	pvalue	pvalue
1年後	**0.11**	0.04
SSQ-A	**[0.06,0.16]**	[-0.01,0.09]
	.001**	0.095
1年後	**0.06**	0.01
SSQ-B	**[0.02,0.10]**	[-0.03,0.06]
	.007**	0.55

表 1-2. 初回時の精神的健康（WHO-5）が１年後のソーシャルサポートに与える影響

図 1. メディアからメンタルヘルスに関する情報を得た割合

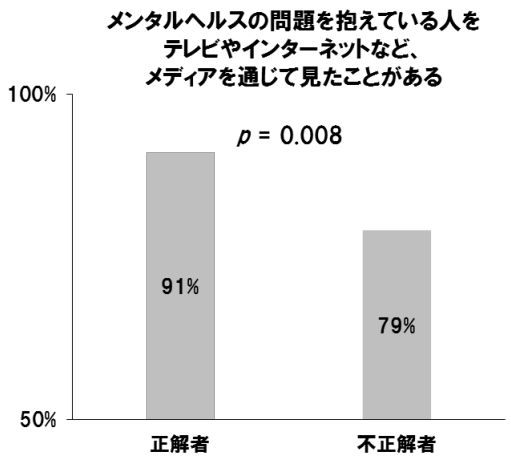

図 2. 病名ごとのスティグマ（MIDUS-SR 得点）

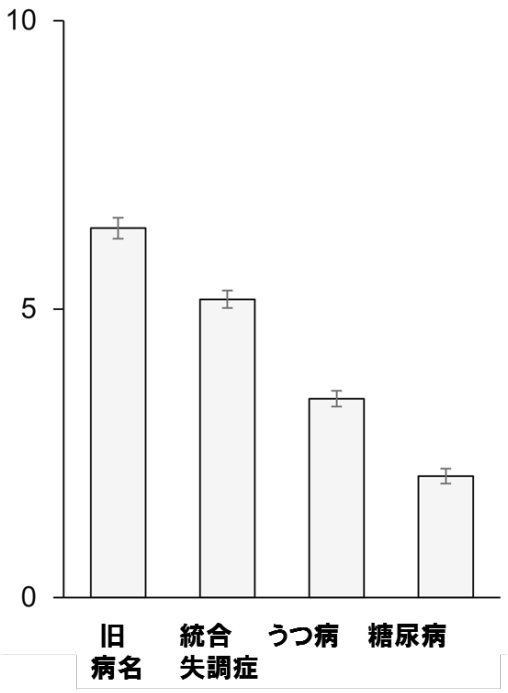

図 3.「統合失調症」クイズ正解によるスティグマの違い

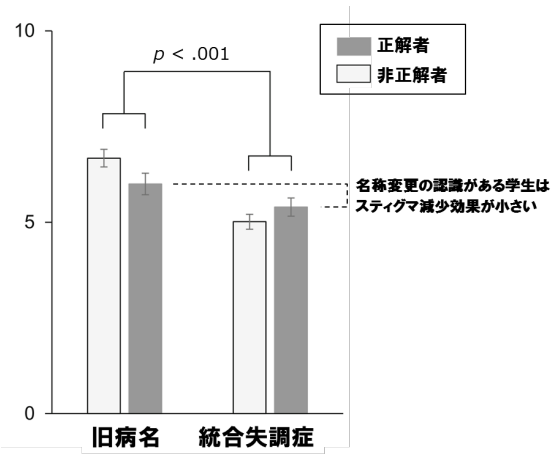
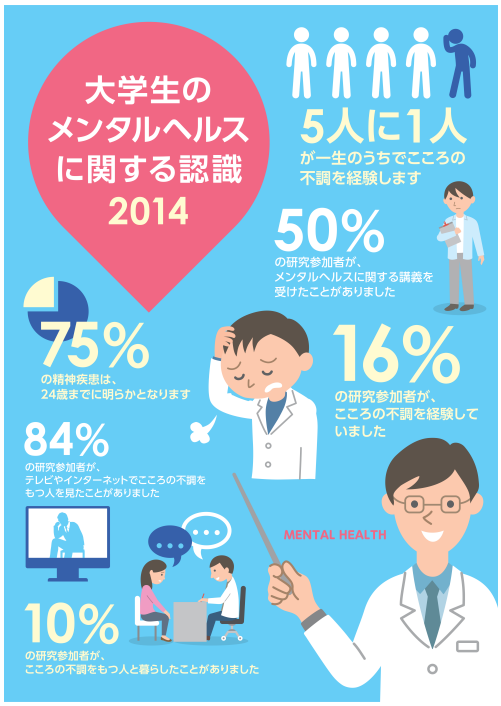
図 4. 報告書兼小冊子